19日本国特許庁

公開特許公報

①特許出願公開

昭52-138062

舒Int. Cl². B 01 D 15/00 // C 02 C 5/02 1 0 1 C 22 B 60/02

受日本分類 13(7) B 621 10 G 22 13(9) F 2 91 C 91 デクトを理番号 7404-4A 7047-42 6939-4A 6462-26

③公開 昭和52年(1977)11月17日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全2頁)

匈海中を移動する吸着剤ブロック

願 昭51—54976

頭 昭51(1976)5月13日

@発 明 者 芦田啓次

②特

20出

東京都千代田区鍛治町二丁目 6

番1号 住友原子力工業株式会 社内

⑪出 願 人 住友原子力工業株式会社

東京都千代田区鍛冶町二丁目 6

番1号

邳代 理 人 弁理士 滝本浩

男 組 🛊

発明の名称 海中を移動する鉄着剤ブロック 特許請求の範囲

多数の膜状段着剤をそれぞれ小間膜を隔てて置合 し前記小間隙に海水を筋出入せしむるととを特徴 とする海中を事動する吸着剤プロック。

発明の詳細な説明

本発明は海中を移動する政党剤ブロックに関する ものである。

海水中に含有される物少物質例えばウランを採集する方法の一つとして吸着法が研究されているが、 海中を移動する吸着剤として液体症状が小さく且 つ広い面に於いて海水と鉄触するものが要求され ている。

本発明はとの要求に応じて工夫されたものであっ て、 族状吸着剤を関係を騙てて多数重合せるもの である。

とれを認面により具体的に説明すると図面は本発 明の吸着剤プロックの針視図であって。(1) は裏状 吸着剤例えばチョン酸、方面要等の粉粒体を寒枢 に附着せるもの又は酸酸状及着剤を裏状に加工せ るものであってとれを多数それぞれ小間膜(2) を第一317一 てて重合し、ポルト(3) にて締めつけてブロック(4) とせるものである。をか小関策を隔てる手段とし てスペーサーを用いてもよい。(5) は海水の洗入方 肉、(6) はその進出方向である。

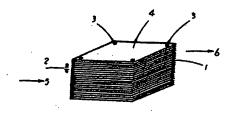
関面の簡単な説明

図面は本発明の海中を移動する吸着剤ブロックの 斜視図である。

(1) は農牧政兼期, (2) は小闘酸, (6) は吸溶剤ブロック, (5), (6) はそれぞれ海水の洗入, 流出方向。

代理人 分理士 龍 本 治 過煙

特別昭52-138082(2)



-318-